

「FINE」が東京研修会

国産・輸入の今後

西尾義彦氏ら招き展望

(一社) FINE(石田秀樹会長)㈱サンクスの東京研修会が10月23日、東京都港区高輪のTKP品川カンファレンスセンターANNEで開催された。

FINEには生花卸、切り花の委託販売、花店



石田秀樹会長

などを展開する18社が加盟。会員一丸でコミュニケーションを構築することで、お客のニーズにあった情報の共有と、生産できる体制を整えることを目指す。2022年に社団法人化した。

講演テーマは▽「2024年、年末向け花流通の展望について」(株)オー

クネット・アグリビジネス代表取締役 徳山幸二氏
スAG営業部 武部幹生氏▽「2024年、年末の菊類の状況と今後の日本について」(有)ビー・ツー

海豊生物科技有限公司副社長 張賓賓氏▽「国産カーネーションは7年後(2031)、国産菊は15年後(2039)に半減する。その時、あなたは?」(株)クラシック代表取締役会長 西尾義彦氏。

武部氏は、松と千両の主産地の現状を報告。また張氏からは中国の自



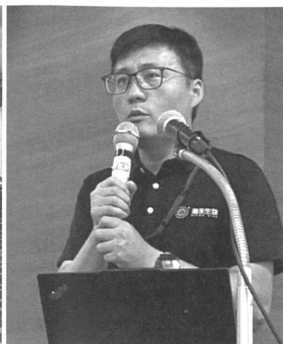
西尾義彦氏の講演



武部幹生氏



研修会風景



張賓賓氏

農場について、浙江省、雲南省、海南島の計174珍で、キク類、カーネーション、ユリなど700万本以上を栽培、葬儀事業も展開していることが紹介された。

西尾氏は、2013-22年の10年間の推移から見える切り花マーケットの近未来を解説。国産カーネーションは7年後に、同バラは8年後に、同キクは15年後に、国産切り花は15年後に50%消滅する可能性があるとし、気候変動が減少をさらに加速化させると指摘。この10年で国産切り花本数は23%、輸入切り花本数は円安もあり8%減少、国産、輸入合計で20%も減少した。市場への供給減で、単価は国産、輸入とも30%近く上昇。マーケットは本数減、単価アップで、ほぼ3000億円と横ばいで10年間変わらず。「国産は減り続ける。輸入が補完できるか?」「切り花単価はさらに上昇傾向」とし、国産減少のスロウダウン対策や、輸入増対策が必要と訴えた。ケニアやエ

チオピア、コロンビア、エクアドルの大規模花き農園の紹介もあった。講演終了後は会場を移して懇親会となり、活発に情報交換がされていた。